

2022年度 国公私：単位互換に係る諸日程

		名古屋大学	名古屋市立大学	名城大学
授 業 期 間	前期		4月12日(火)～7月29日(金) ※コロナウイルスの感染拡大防止対応のため 日程が変更となることがあります	4月6日(水)～7月26日(火) ※コロナウイルスの感染拡大防止対応のため 日程が変更となることがあります
	後期		10月4日(火)～2月6日(月) ※コロナウイルスの感染拡大防止対応のため 日程が変更となることがあります	9月14日(水)～1月16日(月) ※コロナウイルスの感染拡大防止対応のため 日程が変更となることがあります
試 験 期 間	前期		7月30日(土)～8月5日(金)	-
	後期		2月7日(火)～2月13日(月)	-

国公私：単位互換用授業科目一覧

大学名：名古屋市立大学

2022(令和4)年度 前期 単位互換授業科目

曜日	時限	授業科目名	単位数	担当教員名	教室	備考
水	4	外国経済史	2	木谷 名都子	Zoomによるオンライン	※前期授業開始日：4月12日(火)～ ※コロナウイルスの感染拡大防止対応のため 日程が変更となる場合があります
金	1	技術マネジメント	2	大神 正道	Zoomによるオンライン	
集中講義※		企業ファイナンス	2	臼杵 政治	Zoomによるオンライン	

※開講日時は、9/3、9/5、9/7、9/12、9/14 各日2～4限

2022(令和4)年度 通年 単位互換授業科目

曜日	時限	授業科目名	単位数	担当教員名	教室	備考
		開講なし				

2022(令和4)年度 後期 単位互換授業科目

曜日	時限	授業科目名	単位数	担当教員名	教室	備考
水	2	管理会計	2	奥田 真也	Zoomによるオンライン	※後期授業開始日：10月4日(火)～ ※コロナウイルスの感染拡大防止対応のため 日程が変更となる場合があります

授業時間帯

【1時限】 9：00～10：30

【2時限】 10：40～12：10

【3時限】 13：00～14：30

【4時限】 14：40～16：10

【5時限】 16：20～17：50

【6時限】 18：20～19：50

【7時限】 20：00～21：30

年度「2022 大学院シラバス」、フォルダ「経済学研究科」
シラバスの詳細は以下となります。

ナンバリング			
科目名	外国経済史		
担当教員	木谷 名都子		
対象学年		サブコード	
講義室	3-院2	開講学期	前期
曜日・時間	水4	単位区分	
科目種別	講義	単位数	
準備事項			
備考			
授業の目的・目標	インド経済史について学びます。インドがどのような過程を経て経済発展を遂げてきたのか、世界経済におけるインドの位置づけという観点もふまえて学びます。		
キーワード	foreign trade, colonialism, industrialization, economic growth, openness, globalization		
ディプロマ・ポリシーとの関連	学識・知見		
学修到達目標	インドがどのような過程を経て経済発展を遂げてきたのかについて、グローバリゼーションの進展や世界経済におけるインドの位置づけをふまえて議論できるようになること。		
成績評価基準	A：インドがどのような過程を経て経済発展を遂げてきたのか、世界経済におけるインドの位置づけもふまえて説明できる。また、現代インドの課題について考察できる。 B：インドがどのような過程を経て経済発展を遂げてきたのか、世界経済におけるインドの位置づけもふまえて説明できる。 C：インドの経済発展過程の特徴を説明できる。		
授業概要	テキストの輪読を行います。報告担当者は、テキストのなかで自分が担当する部分の内容を要約するとともに、それに対する疑問点やコメントを提示します。その後、履修者全員でディスカッションを行います。教員による補足解説も行います。 本科目は、英語文献講読科目です。		
授業計画	第1回 授業の概要と計画 第2回 Introduction: What Are the Questions? 第3回 Transition to Colonialism: 1707-1857 (1) 第4回 Transition to Colonialism: 1707-1857 (2) 第5回 Transition to Colonialism: 1707-1857 (3) 第6回 Transition to Colonialism: 1707-1857 (4) 第7回 The Pattern of Economic Growth: 1857-1947 (1) 第8回 The Pattern of Economic Growth: 1857-1947 (2) 第9回 The Pattern of Economic Growth: 1857-1947 (3) 第10回 Small-Scale Industry (1) 第11回 Small-Scale Industry (2) / Large-Scale Industry (1) 第12回 Large-Scale Industry (2) 第13回 Indian Economy after Independence (1) 第14回 Indian Economy after Independence (2) 第15回 Conclusion		
授業時間外の学修（準備学習を含む）	毎回、予習を欠かさないこと。 授業後、理解が不十分であった内容については、関連文献を読むなどして修得に努めること。		
成績評価方法	報告およびディスカッション：60% ・文献の内容の理解度およびディスカッションにおける発言頻度により評価します。 レポート：40% ・関連文献の内容をきちんと理解したうえで、論理的な考察を行っているかどうかを評価のポイントとします。 上記2つの合計（100%）に対し、規程に従い、A, B, C, Dを判定します。		
教科書・テキスト	Tirthankar Roy (2020) "The Economic History of India 1857-2020, Fourth Edition", Oxford University Press.		
参考文献	Tirthankar Roy (2012) "India in the World Economy: From Antiquity to the Present", Cambridge University Press. Tirthankar Roy (2018) "A Business History of India: Enterprise and the Emergence of Capitalism from 1700", Cambridge University Press. B. R. Tomlinson (2013) "The Economy of Modern India, From 1860 to the Twenty-First Century, Second Edition", Cambridge University Press. 柳澤悠 (2014) 『現代インド経済 一発展の淵源・軌跡・展望一』名古屋大学出版会。 その他の参考文献については、授業で紹介いたします。		
履修要件	特にありません。		
履修上の注意事項	無断欠席は厳禁です。欠席する際には必ず連絡してください。 レポートの提出期限は厳守。期限後の提出は減点対象とします。 場合によっては、報告・ディスカッション・教員による補足解説を英語で行う可能性があります。		
履修者への要望事項	報告担当者は、レジュメを作成してください。 履修者全員、予習を欠かさずに行ってください。 ディスカッションの際には、積極的に発言してください。		
アクティブ・ラーニング	授業の後半に履修者全員でディスカッションを行います。		
連絡先・オフィスアワー	連絡先：kitani@econ.nagoya-cu.ac.jp 研究室：3号館3階323研究室 オフィスアワー：火曜日13:30-14:30、木曜日12:00-12:50 ※「在室中」であるときは随時訪ねてくれてかまいませんが、面談を希望する際には、念のために事前に連絡してアポイントメントをとってください。		
実務経験を活かした教育の取組			
備考	授業計画は、授業の進捗などによって変更される場合があります。		
関連URL			

年度「2022 大学院シラバス」、フォルダ「経済学研究科」
シラバスの詳細は以下となります。

ナンバリング			
科目名	技術マネジメント		
担当教員	大神 正道		
対象学年		サブコード	
講義室	3-院4	開講学期	前期
曜日・時限	金 1	単位区分	
科目種別	講義	単位数	
準備事項			
備考			
授業の目的・目標	本講義では、「イノベーション」や「技術変化」、「技術進化」をキーワードとする基礎的な経営学の文献(主に英語文献)の理解を目標とする。		
キーワード	イノベーション、技術変化、技術進化		
ディプロマ・ポリシーとの関連	学識・知見：技術的变化に柔軟かつ確に対応するための理論的な基礎能力を身につける		
学修到達目標	本講義における学習到達目標は大きく三つある。第一は輪読する文献の主張を理解することである。第二は、第一の目標と関連するが、輪読対象の文献(特に論文)の構成や論理、まとめ方を学ぶことである。第三は文献を読むことで自分なりの問題意識を育てることである。		
成績評価基準	秀：研究論文を作成するための問題を設定することができる 優：技術マネジメント分野の研究論文について批判的に検討できる 良：代表的な技術マネジメント研究について説明できる 可：技術マネジメント研究の基本的な概念を説明できる		
授業概要	本講義は授業計画の欄に提示した文献を読む予定である。授業では発表担当者が作成した発表資料をもとに議論を行う。		
授業計画	<p>本講義は、下記の文献[1]と[2]を読むことでケーススタディについて学んだ後、技術マネジメント分野においてケースを用いた研究論文や、受講者の興味にあわせた文献を輪読する予定である。</p> <p>ケーススタディに関する文献(例)</p> <p>[1]井上達彦(2014)『ブラックスワンの経営学—通説をくつがえした世界最優秀ケーススタディ』日経BP社。 [2]Eisenhardt, K. M. (1989). Building theories from case study research. <i>Academy of Management Review</i>, 14(4), 532-550.</p> <p>技術マネジメント分野におけるケースを用いた研究論文(例)</p> <p>[3]Barley, S. R. (1986). Technology as an occasion for structuring: Evidence from observations of CT Scanners and the social order of radiology departments. <i>Administrative Science Quarterly</i>, 31, 78-108. [4]Ferlie, E., Fitzgerald, L., Wood, M., and Hawkins, C. (2005). The nonspread of innovations: The mediating role of professionals. <i>Academy of Management Journal</i>, 48(1), 117-134. [5]Morlacchi, P. and Nelson, R. R. (2011). How medical practice evolves: Learning to treat failing hearts with an implantable device. <i>Research Policy</i>, 40(4), 511-525.</p>		
授業時間外の学修(準備学習を含む)	毎回、事前に輪読文献を読み、まとめてくるのが前提になる。		
成績評価方法	受講者には最低論文1本(著書の場合は最低1章)についての発表を求める。また、発表担当ではなくてもレジュメ(A4サイズ1~2ページ程度)を7割以上(発表担当分を含む)提出し、ディスカッションに参加することが単位取得の要件となる。		
教科書・テキスト			
参考文献	<p>近能善範・高井文子(2010)『コア・テキスト イノベーション・マネジメント』新世社。 延岡健太郎(2006)『MOT[技術経営]入門』日本経済新聞社。 一橋大学イノベーション研究センター編(2001)『イノベーション・マネジメント入門』日本経済新聞社。(講義の対象は第1部)</p>		
履修要件			
履修上の注意事項			
履修者への要望事項	ケーススタディを用いて修士論文やリサーチペーパーの作成を考えている学生の受講を要望する。		
アクティブ・ラーニング			
連絡先・オフィスアワー	<p>ogami[at]econ.nagoya-cu.ac.jp ※[at]を@(半角)に置き換えてください。 原則として火曜日12:10-13:00(3号館4階424研究室) ※事前に連絡があれば他の日時でも対応可能。</p>		
実務経験を活かした教育の取組			
備考			
関連URL			

年度「2022 大学院シラバス」、フォルダ「経済学研究科」
シラバスの詳細は以下となります。

ナンバリング	
科目名	企業ファイナンス
担当教員	臼杵 政治
対象学年	
講義室	3-院2
曜日・時間	集中
科目種別	講義
準備事項	
備考	
授業の目的・目標	学園祭のたご焼き屋から、中国に電気自動車工場を作る自動車メーカーまで、企業（事業法人）の活動はまず、最初に投資家から資本を集めてビジネス（事業）に投下することから始まります。その上で利益をあげて増やした資本を投資家に分配することによって、株式会社の事業が成立しています。その資本調達・投資という企業ファイナンス（財務活動）について理解し、それを現実の企業の事業活動にあてはめていきます。
キーワード	現在価値と将来価値、資本コスト、リスクプレミアム、企業の資本構成と企業価値
ディプロマ・ポリシーとの関連	学識・知見
学修到達目標	コーポレートファイナンスの投資・資金調達の意思決定について学び、実務への応用力を身につける。すなわち、 ・資本を集めてプロジェクトに投資する、企業ファイナンス（財務活動）を説明する理論の枠組みを理解すること。 ・与えられた条件の下での基本的な数値例の解答を計算・説明できるようになること。
成績評価基準	秀：企業ファイナンスの基本的な概念を習得し、それらの概念を用いて実際の問題に應用・分解し、解きほぐす能力を十分に身につけている 優：企業ファイナンスの基本的な概念を習得し、実際の問題に應用する能力を十分に身につけている 良：企業ファイナンスの基本的な概念を習得し、実際の問題に應用する能力を身につけている 可：企業ファイナンスの基本的な概念を習得し、実際の問題に應用する能力を一応、身につけている
授業概要	講義(資料を配付します) 及び授業中にクイズ(数値例)を解きながら、理解を進めます。 出席者に解答して貰います
授業計画	1. コーポレートファイナンスとは(概論) 2. 現在価値と将来価値、複利と単利 3. 現在価値と将来価値、リターンの計算 4. リスクがあるプロジェクト(株式)の割引率β 5. 投資の意思決定と評価方法(正味現在価値法) 6. 考慮すべきキャッシュフローと他の評価方法 7. リアルオプション 8. リアルオプション(2)とおさらい 9. フリーキャッシュフローの計算 10. 中間テスト 11. 企業価値と資本構成 12. 負債のある場合の企業価値(MM理論) 13. 負債のある場合の企業価値(税のある場合) 14. 企業価値と資本構成の理論的説明 15. 配当と企業価値及び期末試験 集中講義の場合、3回ずつ講義し 第10回に中間試験、第15回に期末試験を実施する予定です また、選別授業により実施する場合も同様です ただし、以上のスケジュールは学生の理解度によって変更することがあります。
授業時間外の学修(準備学習を含む)	中間試験・期末試験前の他、普段からある程度復習していくことが望ましい。
成績評価方法	中間試験(50%)及び期末試験(50%)。授業への参加状況を加味します。
教科書・テキスト	資料を作成し配布します。 入門者向けの参考書としては 砂川伸幸『コーポレートファイナンス入門』日経文庫(2004) があります。
参考文献	1. 野間幹晴・本多俊毅『コーポレートファイナンス入門』、共立出版(2005)、 2. ロバート・C・ヒギンス(グロービス),『ファイナンシャル・マネジメントー企業財務の理論と実践』ダイヤモンド社(2015)、 3. Stephen A. Ross他著(大野薫訳)『コーポレート・ファイナンスの原理』金融財政事情研究会(2012)、 4. マッキンゼーアンドカンパニー他『企業価値評価第五版(上・下)』ダイヤモンド社(2012)、 5. 鈴木一功『企業価値評価実践編』ダイヤモンド社(2004) 6. 井出正介・高橋文郎『ビジネスゼミナール経営財務入門(第4版)』日本経済新聞社(2009)
履修要件	特にありませんが、計算問題が多いので、計算や簡単な数式について抵抗のないこと。
履修上の注意事項	計算問題が多いです。数値計算に苦手意識のある人には履修をおすすめしません。
履修者への要望事項	復習にはある程度の時間をきちんと割いてください。
アクティブ・ラーニング	
連絡先・オフィスアワー	usuki@econ.nagoya-cu.ac.jp 木曜日12:10~13:00 事前にメールをください
実務経験を活かした教育の取組	銀行・生命保険シンクタンクの勤務経験があります
備考	特にありません
関連URL	

年度「2022 大学院シラバス」、フォルダ「経済学研究科」
シラバスの詳細は以下となります。

ナンバリング			
科目名	管理会計		
担当教員	奥田 真也		
対象学年		サブコード	
講義室	3-院2	開講学期	後期
曜日・時限	水 2	単位区分	
科目種別	講義	単位数	
準備事項			
備考			
授業の目的・目標	管理会計は企業内部の様々な意思決定や業績評価を行う上で必要となる情報を作成・提供するという役割を担っています。情報の作成、整理において情報技術 (IT)が必要不可欠になっております。そこで本講義では企業のITの役割を考えた上で会計におけるITの役割を考えます。		
キーワード	IT, 管理会計		
ディプロマ・ポリシーとの関連	会計とITとの関係を理解する。		
学修到達目標	会計とITとの関係を理解すること。		
成績評価基準	会計とITとの関係を理解できるようになること。		
授業概要	会計とITとの関係を学習します。		
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 企業の情報戦略の決定要因① (講義) 2. 企業の情報戦略の決定要因② (講義) 3. ガバナンスと企業の情報戦略① (講義) 4. 企業の情報戦略の決定要因③ (論文解題) 5. ガバナンスと企業の情報戦略② (論文解題) 6. 企業の情報戦略と成果の関係について① (講義) 7. 企業の情報戦略と成果の関係について② (論文解題) 8. 会計情報システムのデザインについて① (講義) 9. 会計情報システムのデザインについて② (論文解題) 10. 会計情報システムの会計実務への影響① (講義) 11. 会計情報システムの会計実務への影響② (論文解題) 12. 内部統制・内部監査とIT① (講義) 13. 内部統制・内部監査とIT② (論文解題) 14. 継続的監査の現状と課題① (講義) 15. 継続的監査の現状と課題② (論文解題) 		
授業時間外の学修 (準備学習を含む)	英文論文の論文解題をやってもらいますので、事前に必ず読んでください。		
成績評価方法	論文解題 30%、講義参加点 30%、最終レポート 40%		
教科書・テキスト	Microsoft Teamsで配布します。		
参考文献	講義中並びにMicrosoft Teamsで適宜紹介する。		
履修要件	企業組織などに関心を持つこと		
履修上の注意事項	授業中の私語や出入りは慎むこと 講義用PPTは講義の後、アップロードします。アップロード先は講義中にお知らせします。		
履修者への要望事項	ITに関して感度を高めておいてください。プログラムなどは行いません。 読んでもらう論文は英語なので、英語を恐れないようにしてください。		
アクティブ・ラーニング			
連絡先・オフィスアワー	s-okuda@econ.nagoya-cu.ac.jp 月曜日 13時-14時		
実務経験を活かした教育の取組	該当なし		
備考			
関連URL			

令和4（2022）年度学事日程

【前 期】

	日	月	火	水	木	金	土	学 事
4 月						1	2	5 入学式・ガイダンス
	3	4	5	6	7	8	9	12 前学期授業開始
	10	11	12 ①	13 ①	14 ①	15 ①	16 ①	12-19 長期履修申請期間(前期課程入学者) 既修得単位認定申請期間
	17	18 ①	19 ②	20 ②	21 ②	22 ②	23 ②	12-22 前学期・後学期履修登録期間 博士前期早期修了申請期間(2年次生)
	24	25 ②	26 ③	27 ③	28 ③	29	30 ③	22 指導教員選択申請期限 修士論文・リサーチペーパー選択申請期限【新規申請：前期課程入学者】
5 月	1	2 ③	3	4	5	6 ③	7 ④	
	8	9 ④	10 ④	11 ④	12 ④	13 ④	14 ⑤	10 修士論文・リサーチペーパー選択 最終申請期限【変更：9月修了予定者】
	15	16 ⑤	17 ⑤	18 ⑤	19 ⑤	20 ⑤	21 ⑥	12-18 履修取消期間
	22	23 ⑥	24 ⑥	25 ⑥	26 ⑥	27 ⑥	28 ⑦	
	29	30 ⑦	31 ⑦					
6 月				1 ⑦	2 ⑦	3 ⑦	4 ⑧	1-10 課程博士学位授与申請期間(前学期) 修士学位授与申請タイトル申出期間(前学期)
	5	6 ⑧	7 ⑧	8 ⑧	9 ⑧	10 ⑧	11 ⑨	
	12	13 ⑨	14 ⑨	15 ⑨	16 ⑨	17 ⑨	18 ⑩	14 博士後期課程 研究経過報告会
	19	20 ⑩	21 ⑩	22 ⑩	23 ⑩	24 ⑩	25 ⑪	
	26	27 ⑪	28 ⑪	29 ⑪	30 ⑪			
7 月						1 ⑪	2 ⑫	1 修士学位授与申請書・論文提出期限(前学期)
	3	4 ⑫	5 ⑫	6 ⑫	7 ⑫	8 ⑫	9 ⑬	
	10	11 ⑬	12 ⑬	13 ⑬	14 ⑬	15 ⑬	16 ⑭	12 博士後期課程 公開セミナー(前学期)
	17	18 ⑭	19 ⑭	20 ⑭	21 ⑭	22 ⑭	23 ⑮	18 海の日【授業開講日】
	24	25 ⑮	26 ⑮	27 ⑮	28 ⑮	29 ⑮	30 試補	29 前期授業最終日
	31							30-8/5 前学期補講期間・期末試験
8 月		1 試補	2 試補	3 試補	4 試補	5 試補	6	6-9/30 夏季休業期間(8/6~9/30)
	7	8	9	10	11	12	13	
	14	15	16	17	18	19	20	
	21	22	23	24	25	26	27	
	28	29	30	31				
9 月					1	2	3	
	4	5	6	7	8	9	10	
	11	12	13	14	15	16	17	
	18	19	20	21	22	23	24	22 秋季授与式
	25	26	27	28	29	30		

は、学部等事務室業務を取り扱いません。○は、講義開講日(数字は講義回数)です。

※国民の祝日に関する法律に規定する休日は学則で休業日とされていますが、前期授業回数確保のため7月18日(月)を授業開講日とします。

【後 期】

	日	月	火	水	木	金	土	学 事
10 月							1	3 秋季入学式・ガイダンス
	2	3	4 ①	5 ①	6 ①	7 ①	8 ①	4 後学期授業開始
	9	10 ①	11 ②	12 ②	13 ②	14 ②	15 ②	4-14 後学期履修登録・修正期間
	16	17 ②	18 ③	19 ③	20 ③	21 ③	22 ③	10 スポーツの日【授業開講日】
	23	24 ③	25 ④	26 ④	27 ④	28 ④	29 ④	28 開学記念日【授業開講日】
	30	31 ④						31-11/4 履修取消期間
11 月			1 ⑤	2 ⑤	3	4 ⑤	5 ⑤	
	6	7 ⑤	8 ⑥	9 ⑥	10 ⑤	11 ⑥	12 ⑥	8 修士論文・リサーチペーパー選択 最終申請期限【変更:3月修了予定者】
	13	14 ⑥	15 ⑦	16 ⑦	17 ⑥	18 ⑦	19 ⑦	
	20	21 ⑦	22	23	24 ⑦	25 ⑧	26 ⑧	22 開学記念日の振替休日
	27	28 ⑧	29 ⑧	30 ⑧				
12 月					1 ⑧	2 ⑨	3 ⑨	1-9 課程博士学位授与申請期間(後学期) 修士学位授与申請タイトル申出期間(後学期)
	4	5 ⑨	6 ⑨	7 ⑨	8 ⑨	9 ⑩	10 ⑩	
	11	12 ⑩	13 ⑩	14 ⑩	15 ⑩	16 ⑪	17 ⑪	
	18	19 ⑪	20 ⑪	21 ⑪	22 ⑪	23 ⑫	24 ⑫	25-1/9 冬季休業期間
1 月								
	1	2	3	4	5	6	7	10 後学期授業再開
	8	9	10 ⑫	11 ⑫	12 ⑫	13	14	11 修士学位授与申請書・論文提出期限(後学期)
	15	16 ⑫	17 ⑬	18 ⑬	19 ⑬	20 ⑬	21 ⑬	13 大学入学共通テスト準備のため休講 14-15 大学入学共通テスト ※13-15(滝子キャンパス立入禁止)
	22	23 ⑬	24 ⑭	25 ⑭	26 ⑭	27 ⑭	28 ⑭	17 博士後期課程 公開セミナー(後学期)
29	30 ⑭	31 ⑮						
2 月				1 ⑮	2 ⑮	3 ⑮	4 ⑮	6 後学期授業最終日
	5	6 ⑮	7 試補	8 試補	9 試補	10 試補	11 試補	7-13 後学期補講期間・後学期期末試験
	12	13 試補	14	15	16	17	18	
	19	20	21	22	23	24	25	25-26 (学部)前期日程入学試験(滝子キャンパス立入禁止)
3 月				1	2	3	4	
	5	6	7	8	9	10	11	8 (学部)中期日程入学試験 (滝子キャンパス立入禁止) 12 (学部)後期日程入学試験 (滝子キャンパス立入禁止)
	12	13	14	15	16	17	18	
	19	20	21	22	23	24	25	24 修了式
	26	27	28	29	30	31		

は、学部等事務室業務を取り扱いません。○は、講義開講日(数字は講義回数)です。

※国民の祝日に関する法律に規定する休日は学則で休業日とされていますが、後期授業回数確保のため10月10日(月)を授業開講日とします。